



第 1207 回例会報告

会長挨拶

会長 長崎政直

アフリカ

本日は、世界最貧国、国連加盟182カ国中177位の西アフリカのブルキナファソ(清廉潔白な人達の国)に、青年海外協力隊の一員として2年間行ってこられた宮澤久美子さんをお迎えての卓話例会です。ブルキナファソなんて国の存在すら知らない私達ですから、大変楽しみです。

さて、そんな例会に備えて、アフリカについて少し調べ、考えて見ました。最初に思い浮かんだ情景は、大きな太陽が沈む、その夕焼けの中をゆっくり移動する象でした。次には、ライオンやキリンやシマウマが走り回る大草原、サバンナ・・・そしてブッシュマンなどなど、これらは全て、昔見た映画やテレビの情景です。南アフリカのアパルトヘイト、ソマリアの悲劇、色々なことが皆さんも思い出されるでしょう。

それにしてもアフリカは、地理的にも、時間的にも、心理的にも、私達日本人にとって、遠くの大陸です。しかし、約400万年～500万年前、人類が誕生したのは、アフリカだと言われています。ホモ・サピエンス・サピエンスと呼ばれている新人類も20万年前、アフリカで誕生しています。私たちは、その生まれ変わりで、生まれ変わる単位年数を25年とすると、16万回～20万回生まれ変わって、私達があるということになります。またホモ・サピエンスになってからですと8千回生まれ変わっています。16万～20万代前の先祖達、あるいは8000代前の先祖達は、皆兄弟、親類縁者なのです。

日本人ですが、ホモ・サピエンス・サピエンスから派生した古蒙古人が日本に住みついたのは、3万5千年前ということですから、1400回、生まれ変わっています。1400代前の先祖は、日本人として皆兄弟、親類縁者です。私たちは、ホモ・サピエンスである以上、確実に親類縁者なのです。

そんなところから物事を考えると、現代人は、肌の色が黒いとか、白い、黄色いとかに関わりなく、皆兄弟・親類縁者なのです。やれイデオロギーに、宗教に、人種によ

平成 23 年 1 月 13 日(木) 晴れ

って、国益によって、親類縁者が争って生きているのは、愚かなことだと思うのです。人類皆兄弟なのです。

もう一つ、人類誕生の地であるアフリカが、大陸で比較すると、一番貧しいのはどうしてだろうか、文明的にも一番遅れているのは、なぜだろうか・・・。豊かな大地過ぎて、文明を必要としなかったのかもしれませんが。

◇幹事報告◇

- 以下の文書を受領いたしました。
 - ①ウィークリー(諏訪 RC・富士見 RC)を受領致しました。
 - ②3月6日(日)開催の諏訪グループ、Intercity Meeting 開催通知案内書がホストクラブ(岡谷エコー RC)より配布されました。参加に向けて調整をお願いします。
 - ③国際ロータリー日本事務局奉仕室から 2010-11年度 RI 会長名の当会宛メッセージが届きました。全文を別掲載しますので御一読下さい。
- 連絡事項
 - ①下半期会費納入票を配布致しました。1 月末までに納入をお願いします。
 - ②昨年 11 月にご逝去なされた元会員三澤敏郎殿の追悼会を次のとおり催します。「1 月 27 日(木)18 時 30 分うらかめや」参加申し込み等の詳細は別途連絡致します。

2010-11年度RI会長からのメッセージ

諏訪湖ロータリー・クラブ会員 各位
この度、貴クラブが創立 25 周年を迎えられましたこと

■ニコニコ BOX

26名	26,000円
累計	741,000円
目標額	130万円
達成率	57.0%

■出席報告

会員数	35名
出席対象	35名
出席者数	26名
出席率	74.2%
前回修正	88.5%

■今週のこトバ

■次回のプログラム

新会員卓話
職業奉仕委員会



を、心よりお慶び申し上げます。皆さまの長きにわたる親睦と奉仕の歴史に対し、国際ロータリーを代表してお祝いの言葉をお伝えできますことを、とても嬉しく感じております。皆さまによる貢献は、貴クラブの誇りであるだけでなく、地域にとっての大きな財産でもあると私は信じております。

今から25年前、貴クラブの創立会員はロータリーの抱くユニークで特別な奉仕の理想に共感され、その時の熱意は時代の荒波にのまれることなく、貴クラブの皆さまによって今日まで引き継がれてきました。国際ロータリーに対する貴クラブ創立会員の貢献は計り知れず、国際ロータリーは、貴クラブの皆さま、さらには多くの国々で熱心に活動される数多くのロータリアンに多大な感謝の気持ちを抱いております。

現在、およそ200の国々と地域に33,000のクラブが存在し、120万を超すロータリアンが活動しているという事実は驚くべきことです。また、ポリオ・プラス・キャンペーンにおいては、これまでに99パーセント以上のポリオ発症件数の減少が確認されており、今日、ロータリーは世界を舞台に活躍する組織に成長しました。現在、ロータリーとその協力団体は、ポリオ撲滅の一手手前まで来ており、私たちはロータリアンとして重要な時を迎えています。

ロータリーは、ロータリー・クラブから成る組織であり、「奉仕の精神」を掲げて活動しています。国際ロータリーは、貴クラブとともに「奉仕の精神」を持ち続け、2世紀目にも奉仕を実践してまいります。さらなる親睦と奉仕を提供していく上で、貴クラブをはじめ、一つ一つのクラブが「より大きく、豊かで、大胆な」クラブとなることによって、世界有数の組織である国際ロータリーは、これからも力強く活動を展開していくことができます。

地域レベル、また地球レベルで善意ある人々を結びつけていく上で、ロータリーほど優れた組織はほかにありません。これによって得られる協力と支援をもとに、人々の生活が営まれるこの世界は、より良い場所へと変わっていくでしょう。ロータリアンである私たちは、誠に恵まれていると私は思います。心を込めて

2011年1月4日

2010-11年度 RI 会長 レイ・クリンギンスミス

第1207回例会

海外青年協力隊 OB 宮澤久美子さん卓話

担当 国際奉仕委員会

世界最貧国の一つといわれる、西アフリカの小さな国ブルキナファソ。この国で青年海外協力隊として過ごした2年間で私が学んだこと。それは今までの人生の中で一番大きな決断と引き換えに得られた、シンプルだけど本当に大切なことでした。

★「そのときの自分にできる最善のことをしているうちに、道は開ける」★

ほとんどなんにもできなかった、赴任して1年目の私。

現地の人々より恵まれた生活をさせてもらっているとはいえ、まだ雪が残る信州からいきなり夜も眠れないくらい暑い環境に飛び込んだ私は、文字通り「生きていくのに精一杯」でした。それでも生活に不可欠なフランス語(公用語)を勉強しようと努力はするものの、なかなか結果が現れない日々が

続きました。要請されていた仕事も当初の予定通り進んでいないことが段々とわかりはじめ、活動場所や方向性を自分で模索する悶々と

した日々。そんなある日、「このままでは自分が腐る、駄目になってしまう。そんなのは絶対に嫌だ！」と自転車に乗って小1時間、電気も水道もないロアング村へと飛び出したのです。結論からいいますと、これが現状打破のきっかけとなり歯車が回りだしたのです。

この村の青少年団体のリーダーを呼び出し話したところ、彼の協力で、子どもたちに「お絵かき」を通して啓発教育を行うことになりました。衛生教育・交通安全・平和など、子どもたちがこれからよりよく生きていくのに少しでも役立ちたいという気持ちはもちろんですが、まず自分自身がよりよく生きたいという思いが強くなったのだと思います。「お絵かき」を選んだのは、得意だからというより、それしかなかったから。もともと好きではあったのですが、こんなに追い込まれるまでは考えもしませんでした。

自信があるとかないとか言っていられない、自分が腐らないためにはできることは何でもやってみるんだ・・・！そんな気持ちでした。それが私を大きく前へ進ませてくれる原動力になったのでした。もちろん少し不安もありましたが、どこかワクワクしていました。

「ああ、自分ができる最善のことをしようと行動すれば、必ず道は開けるんだ。自信があるとかないとかこだわらずに、そのときの自分にできる最善のことにトライする。楽しみながら。」

ブルキナファソでは、人生の価値観の核になるもの＝宝物を拾いました。この宝物は、ブルキナで出会った子どもたちの輝くような笑顔とともに、私の人生を今も照らし励まし続けてくれています。

本日は諏訪湖ロータリークラブ様例会にお招きいただき、ありがとうございました。

皆さま熱心に質問していただき、私自身とても嬉しく感じました。



感動的だった宮澤久美子さんの追加資料を諏訪湖 RC ホームページに記載いたしました